

## RECARO FORMEL 3 CUP (ドイツF3) Round 5&amp;6 in Euro Speedway

## 練習走行 レポート

5月12日(金) 1回目(09:30~11:00)/11位(1:19.058) - 1.078秒/出走28台  
2回目(13:00~14:30)/12位(1:19.581) - 1.318秒/出走28台

半袖でも汗ばむ、初夏を思わせるような好天のもと、レカロF3カップ第3ラウンドの公式練習がユーロスピードウェイで行われた。前戦のホッケンハイム同様、ここユーロスピードウェイ(ラウジッツリンク)も松村選手にとっては走行経験がまったくない初めてのサーキットであり、1.5時間×2回の計3時間行われた金曜日の公式練習が大変貴重な走行の機会となった。

公式練習1回目は予定通り午前9時30分からスタート。松村選手もグリーンランプの点灯とともに颯爽とコースインし、オーバルとインフィールドをあわせもつツインリンクコースでの初走行を開始した。

序盤はオッサースレーベンのレースで使用した中古タイヤを装着し、初めて挑むコースの完熟走行に徹した。それでも松村選手のタイムは常にトップ10圏内にあり、チーム内でも後半の更なるタイムアップへの期待が膨らんでいった。セッション中盤では若干のマシンセットアップも行い、車高やスタビライザー等の調整が進められ、残り30分で、1分19秒058のタイムをマーク、7~8番手付近に位置していた。しかし、28台の参加車両の中には、トップから10秒近くも遅いタイムで走るマシンもあり、なかなかクリアラップを獲ることが難しく、また、赤旗によるセッション中断も頻繁に発生し、松村選手はラスト30分間で赤旗や遅いマシンにアタックを阻まれ、それ以上のタイムアップを果たすことができなかった。クリアラップを取ることに成功したマシンや、1回目から新品タイヤにてアタックをしたマシンに抜かれ、結局11番手で第1セッションを終えた。タイム的にはトップから約1秒遅れと決して満足のいく結果ではなかったが、とにかく走行マイルを稼ぎたい松村選手としては、全体で2番目に多い37周という距離を走破することができ、F3での貴重な走行経験を積むことができた。

そして2回目の公式練習が始まる午後1時には気温が更に上昇し、コースコンディションの変化が予想された。2速ギヤのレシオ変更とリヤスタビライザーの調整がほどこされた松村選手のマシンは、ギヤレシオ交換時に発覚したミッションエンドケース内のベアリングの不具合解消に若干手間取り、3分程遅れての練習開始となった。開始早々から度々赤旗による中断が発生する中、松村選手はセッティング変更の評価、そして様々な走行ラインの試みに余念がなかった。気温の上昇とツーリングカーの走行によるコースコンディションの悪化に伴い、各車とも1回目のタイムをなかなか更新することができず、全体的に0.5秒程遅いタイムで周回を重ねていた。松村選手も1回目のベストから0.5秒程遅い1分19秒581のタイムをマークし、残り時間30分のところでピットイン。赤旗によるセッション中断を考慮し、早めに新品タイヤでのアタックを行うため、タイヤ交換が行われた。しかし、ニュータイヤが装着されタイムアタックのためコースインしようとした矢先に、再度赤旗により中断。トラブル車両の回収が終了し、走行が再開された時には残り時間は約10分となっていた。タイヤを暖めながらクリアラップを探す松村選手は、計測4周目に入り、いよいよ本格的なタイムアタックへと突入。そして、そこまでの課題であった1~2コーナーの最低速度を一気に上げるべく1コーナーへと飛び込んでいったが、170kmまで減速した地点からコーナー出口へ向けアクセルを徐々に開けていったところで痛恨のスピン。走行後のデータ解析で判明したのだが、その前の週の155kmから一気に15kmも高い速度でアクセルを開け始めたのが原因であり、そのスピンのため左フロントタイヤにフラットスポットを作ってしまう、バイブレーション発生のためピットイン。ニュータイヤでのタイムアタックができないまま、走行を終了した。

マシンバランスは良い状態にあり、十分にタイムアップが可能であったことから悔やまれる結果となってしまったがこの失敗を予選で繰り返さないためにと、走行後、エンジニアとのデータ解析に積極的に取り組んでいた。

明日の土曜日には、第5戦の予選及びに決勝が行われる予定である。

## &lt; 走行後のドライバーコメント &gt;

アタックラップの1コーナーはちょっと行き過ぎてスピンしちゃいました。でもコースの大半を掴むことができたので、ちゃんとまとめることができれば、明日は結果を残すことができると思います。縁石もいっぱい使って集中して頑張ります！